

目次

あおぞら

新任常任理事あいさつ—自治体の役割と学会の活性化—……………米持真一

事務局紹介

(公社)大気環境学会事務局

研究論文(技術調査報告)

- 福岡県における大気中のガス・エアロゾル成分濃度の経年変化(1998-2012)および湿性沈着量の経年変化との比較
……………大石 興弘, 濱村 研吾, 村野 健太郎, 向井 人史… 85
- PM_{2.5}試料採取に用いるフィルターに不純物として含まれる無機元素の特徴……………本多 将俊… 96
- 葉アポプラスト(細胞壁)に存在する抗酸化性アスコルビン酸はオゾンをどこまで解毒できるのか?
—(I) 化学反応を伴ったガス拡散移動に基づいたシミュレーションモデル—
……………野内 勇, 青木 一幸, 小林 和彦… 113
- 葉アポプラスト(細胞壁)に存在する抗酸化性アスコルビン酸はオゾンをどこまで解毒できるのか?
—(II) Microsoft Excelを用いたプログラムとシミュレーション—……………野内 勇, 青木 一幸, 小林 和彦… 128

入門講座

自動車排出ガスの規制と排出ガス低減技術……………岡山 紳一郎… A43

資料(関東支部講演会講演要旨の抄録)

- 平成29年度大気環境学会関東支部講演会報告(2018年5月25日開催)
—有害大気汚染のいま—……………中井 里史… A56
- 我が国における有害大気汚染物質対策について……………田淵 敬一… A57
- 有害大気汚染物質の健康リスク評価の考え方……………青木 康展, 松本 理… A59
- 有害大気汚染物質のモニタリングについて……………星 純也… A62
- 自動車排出から見たPRTR関連物質の低減……………岡山 紳一郎… A67

大気環境学会ニュース

第60回大気環境学会年会のお知らせ(第4報)…………… N39

支部だより

- 関東支部 2018年度支部総会のお知らせ…………… N45
- 関東支部 2018年度大気環境学会関東支部講演会 テーマ: 大気汚染防止法施行後50年を迎えて…………… N45
- 近畿支部 講演会「小型センサによるエアロゾル計測」開催報告…………… N45

関連学協会だより

…………… N46

CONTENTS

[Blue Sky]

Greeting from new executive director

—Role of local government and activation of atmospheric environmental society—.....Shinichi Yonemochi

[Technical Reports]

Long-term Trends in the Component Concentration Data of Gas-Aerosols in Fukuoka Prefecture
for the Period of 1998–2012 Compared to Those of Wet Depositions

.....Okihiro Oishi, Kengo Hamamura, Kentaro Murano, Hitoshi Mukai··· 85

Inorganic Element Impurities of PM_{2.5} Sampling Filters.....Masatoshi Honda··· 96

How Much Can Antioxidative Ascorbic Acid Located in the Leaf Apoplast (Cell Wall) Detoxify Ozone?

—(I) A Simulation Model Based on Gas Diffusion Transfer Accompanied with Chemical Reaction—

.....Isamu Nouchi, Kazuyuki Aoki, Kazuhiko Kobayashi··· 113

How Much Can Antioxidative Ascorbic Acid Located in the Leaf Apoplast (Cell Wall) Detoxify Ozone?

—(II) Simulation with a Program using Microsoft Excel—

.....Isamu Nouchi, Kazuyuki Aoki, Kazuhiko Kobayashi··· 128

—あおぞら—

新任常任理事あいさつ

—自治体の役割と学会の活性化—

埼玉県環境科学国際センター
米持真一

この度、新任常任理事に就任いたしました埼玉県環境科学国際センターの米持真一です。私の大気環境学会入会は2000年です。この年は、当センターが設立され、私が赴任した年でもあります。また、偶然年会在埼玉大学で開催され、初めて参加したことも思い出します。私は現職の常任理事の中では会員としてのキャリアが最も短く、大変光栄ではありますが、同時に私でよいのだろうかという思いもあります。

1950～60年代の高度経済成長の中、日本は深刻な大気汚染に見舞われ、1968年に大気汚染防止法が制定された訳ですが、実はこの年は私の誕生年でもあります。また、埼玉県の誕生日は、私の誕生日でもあります。偶然ではありますが、今こうして埼玉県で大気汚染の仕事に携わっているのは、運命なのかもしれません。

ところで、私は当センターに赴任する以前の1990年代後半の3年半の間、県庁で大気環境行政にも携わっていました。日本が公害大国だった時代に、汚染の最前線に立って実態把握や原因究明に奔走した、先輩方の生の話をしばしば聞くことができました。NO₂はまだ基準を100%達成できず、SPMは達成率数%で横ばいだった頃、埼玉県西部地域でダイオキシン問題が発生しました。私は直接の担当ではありませんでしたが、苦情や問合せの電話も多数受けました。時間は流れ、いま最前線に立つようになり、公害大国時代に現場で奮闘された自治体の諸先輩方には畏敬の念を禁じ得ません。同時に、当時の貴重な経験を引き継いでいくことの重要性を強く感じています。

学会との関わりでは、これまでに編集実務委員や支部役員、分科会代表などを経験してきました。これらを経て感じたことは、環境監視やそれを担保する計測技術の重要性です。有害大気汚染物質でもPM_{2.5}でも光化学オキシダントでも、平時から正しく計測されたデータがあり、これを比較することで初めて見えてくることあります。それが高濃度要因の解析であり、対策効果の検証に繋がる訳ですが、これを担うのが、まず地方自治体の役割と言えます。そして自治体の研究員はこれらのデータに一番近い位置で日々の業務をこな

しているわけで、これは大きな強みと言えるでしょう。ところが近年は、前述の先輩方の退職や、予算や人員削減の影響で、経験や技術の伝承が十分に行われていない場合が少なくありません。会員の減少問題はどの分野でも生じているようですが、単なる人口減少だけでなく、大気環境の改善に伴う社会の関心の低下やそれに伴う組織の縮小化による部分も多いでしょう。2013年に世間を騒がせたPM_{2.5}問題が収まりつつあることも相まって、この傾向は今後さらに強まる可能性もあります。

しかし、大気環境を取り巻く状況は決して楽観視できるものではありません。光化学オキシダントは依然として環境基準達成にほど遠いだけでなく、気候変動への懸念から、これまでの化石燃料を中心とする産業構造は、今後大きく変化していく可能性もあります。また、様々な知見の集積の結果、これまで監視、測定の対象ではなかった物質のモニタリングや実態解明が必要となるかもしれません。さらには、近年多発している自然災害により、工場の被災や建造物の倒壊等により有害物質が大気中に放出されるリスクも増えています。このような中、地域の環境監視を担う、自治体の役割は依然として重要であるにもかかわらず、自治体の環境研究所の置かれている現状は憂慮すべきものではないでしょうか。

このような状況の中、大気環境分野で我が国最大の学術集団である本学会の果たす役割は大きく、自治体に籍を置く研究者の活発な参画が望まれます。私の任期中の役割は、支部、分科会、研究会と事務局移転に関するものですが、理事全体でも数少ない自治体に所属する者として、自治体の研究者と学会との橋渡し、もう一つの役割であると感じています。

学会誌は本号から電子ジャーナル化されました。また、事務局の移転や一つの区切りとなる第60回年会を含む記念事業など、大きなイベントが続きます。常に現場と向き合っている自治体の研究者の皆さんの活発な参画が、本学会の活性化の一つの大きな鍵となるものと思います。まだまだ未熟ではありますが、2年間どうぞよろしくお願い致します。

事務局紹介

(公社)大気環境学会事務局

● **事務局の在り処など**
 事務局は何処にあるのでしょうか？ 大気汚染研究全国協議会として1959年に設立された当時、事務局は東京都港区白金台の国立公衆衛生院に置かれた。1978年に社団法人大気汚染研究協会に改称後、1980年、現在の新宿区新宿1丁目に移転し、それ以来約40年公衛ビル4階に事務局を置いている。その後、社団法人大気環境学会(1995年改称)、公益社団法人大気環境学会(2012年移行)と名称を変えて現在に至っている。
 現事務局の体制は、事務局長(横田久司)と職員(鈴木茂美)の二人。2012年の秋、横田の職場に突然、当時の若松伸司会長と森正樹事務局長、なぜか埼玉県の小川和雄さんが訪れ、事務局長就任の要請があった。まさに青天の霹靂であった。自身、常任理事として公益社団法人移行の実質的な責任者であったこともあり、家族とも相談、職場の許可も得て受けることにした。
 それから、2012年10月1日付で事務局長代行に就任したが、(公財)の職員のまま、週1日半日のみ在席という変則勤務であった。正式就任は2013年4月1日(2014年6月30日まで常任理事併任)で月10日勤務の非常勤として、2019年3月31日で6年になる。事務局の鈴木さんは2012年12月1日付けで常勤職員として採用され、2019年3月31日で6年4月になる。4階の隣室にあった事務所で10数年の勤務経験があり、その経験を活用してくれている。一人半の職員で「小さな政府」の事務局としては、よくやっている方だと自負している(したい?)。

* **事務局での日常**
 近所には都会のオアシス新宿御苑があり四季賑わっているが、多忙のため訪れることは滅多にない。公衛ビル周辺には、チェーン店でない飲食店が多く存在し、昼食や極稀に夜の飲み会で利用している(全て鈴木さんの紹介)。お勧めの店は、「とんかつかつ精」(昼のみ)、「そば処更科」、「天婦羅玉屋」(昼のみ)、「御苑炉庵」(やや高め)、「包丁人のおもてなしみやはら」(夜のみ: 超高価)等々、学会幹部が愛用した「おに平」が閉店したのは寂しい人も多いと思われる。
 一般の会員の方が事務局に見えることはほとんどないが、事務局移転により今年の第60回年会が最後になるので、気軽にお立ち寄りください。

● **学会の今後について**
 事務局業務移転を2019年10月を目途に進めていくことが決定している。正会員の数が1982年の2,273人から2018年の853名まで減り、自治体の環境関係の職員数が減少していること、収入がほぼ会費収入のみであること等を考えると、やむを得ない気がしている。
 移転後は、大原会長が就任挨拶で述べているように、大気環境分野での社会との対話・共働の推進、気候変動分野の活動強化等が必要であるが、活力ある学会に発展、継続させていくためには、役員だけでなく、会員の協力が不可欠である。一つのアイデアだが、理事だけでなく若手の実働部隊を編成して実際の学会運営に協力する体制を作ってはいかがだろうか。(横田)

● **事務局の仕事**
 2018年1年間の主な仕事は下記の様になる。
 1. 理事会等
 メール審議も含めて理事会は、6月、8月、9月に4回開催、同じく実質的な執行機関である常任理事会は、2月、4月、5月、6月、7月、8月、11月、12月の8回開催している。これらの会議の日程調整、資料作成・印刷、議事録作成等を行っている(HP参照)。
 2. 内閣府への報告等
 公益社団として内閣府への報告等の義務があり、事業計画書等の提出(6月)、事業報告等の提出(9月、2019年3月に完了!)、理事改選に伴う変更の届出(12月)がある。特に総会決議を経て9月中に提出する事業報告等は、約40件の資料作成の必要があり大仕事。
 3. 年会関係
 例年9月に開催される年会、定時総会に向けて、年会事務局との連絡調整、後援・協賛等の依頼・実施報告、総会資料の印刷等を行っている。
 4. 学会誌発行関連
 奇数月の10日に年間6号を発行(発送)、その月に編集実務委員会を開催している。事務局は、投稿原稿等の受理、編集委員会への送付、査読結果連絡、校正依頼、掲載号決定通知、掲載料収受等を担当している。
 5. 役員選挙
 2018年は役員改選の年に当たり、中央選管の開催、役員候補者選挙告示、選挙資料の印刷、発送、年会前日の理事準備会(役員互選)、就任手続、法務局への変更登記等を行った。
 6. 日常的な業務
 会員管理(会員の入退会、異動情報の管理、会費納入状況の把握・督促等)、出納事務(会費、会議費等)等があり、また、ホームページへの記事掲載については、広報委員会と連携し、記事の掲載(新規、更新)を行っている。



横田久司事務局長経歴等
 1970年 東京都立大学工学部卒業
 1970年 東京都公害研究所
 1996年 技術士(環境部門)
 2002年 埼玉大学 博士(工学)
 2005年 東京都環境科学研究所応用研究部長
 2013年 (公社)大気環境学会事務局長
学会役員歴等
 2003年 自動車環境分科会代表
 2005年~2011年 常任理事(事業委員会委員長)
 2012年~2013年 常任理事(総務担当)
 2006年 学術賞

◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

第60回大気環境学会年会のお知らせ(第4報)

第60回大気環境学会年会を下記のとおり開催します。多数の会員のご参加をお待ちしております。

会期：2019年9月18日(水)～20日(金)

会場：東京農工大学府中キャンパス(〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8)

年会ホームページ：<https://conv.toptour.co.jp/2019/jsae60/>

【注意点】

- ・ラグビーワールドカップが9月20日より開催され、東京でも試合が行われます。これに伴い周辺地域の宿泊場の予約が困難となることが予想されますので、早期の確保をお願いします。
- ・例年通り、当日支払いの参加費は高額となりますので、事前払込(期限：7月31日)をお勧めします(事前払込：正会員、賛助会員、法人会員B 7,500円、学生会員3,500円、当日支払：正会員、賛助会員、法人会員B 10,000円、学生会員5,000円)。
- ・事前参加登録者には年会ホームページから講演要旨集のPDFファイルをダウンロードできるようにします。今回の年会では講演要旨集(冊子体)は配布せず、プログラム集(冊子体)を配布します(事前送付は行いません)。なお、法人会員Bおよび賛助会員へは、プログラム集に講演要旨集CDを添付して配布します。
- ・例年通り、環境機器展で技術セミナーを開催する予定です。
- ・ポスター発表では希望する学生・若手研究者を対象に、優れた発表を表彰します。
- ・参加申し込みには会員番号が必要です。学会誌送付時の封筒に書かれていますので、確認の程をお願いします。

1. 年会参加及び研究発表の流れ

| 流れ | 期限など |
|--|--|
| 1. 年会ホームページから参加登録ページへアクセスし、参加登録する。 | |
| 2. 発表する場合、年会ホームページ「一般研究発表」のページより指示に従って申込む。 | 期限：5月31日(金) |
| 3. 「一般研究発表」のページより指示に従って講演要旨原稿を提出。 | 期限：6月30日(日) |
| 4. 参加費、発表申込み金、懇親会参加費等を払い込む。 | <u>事前払込み(割引) 期限：7月31日(水)</u> 8月1日(木)以降：参加登録及び支払いは当日、現金支払いのみとなります。 |
| 5. 当日 【事前登録者】受付しプログラム集等を受け取る。 【当日登録者】受付で「当日登録用紙」に記入し、参加費などを支払い、プログラム集等を受け取る。 | |

2. プログラム(予定)

| 日程 | 午前 | 午後 | 夕方 |
|----------|-----------------|-----------------------------------|-----|
| 9月18日(水) | 一般研究発表(口頭)、特別集会 | 一般研究発表(口頭)、ポスター発表、国際交流シンポジウム、特別集会 | 分科会 |
| 9月19日(木) | 一般研究発表(口頭)、特別集会 | 総会、受賞記念講演、60周年記念シンポジウム | 懇親会 |
| 9月20日(金) | 一般研究発表(口頭)、特別集会 | 一般研究発表(口頭)、特別集会 | |

なお、期間中は全日、環境機器展を開催します。様々な最新機器が展示されますので情報収集などの機会としてご参加下さい。

■60周年記念シンポジウム「気候変動に伴う大気環境変化とその影響」

基調講演：中島 映至(JAXA地球観測研究センター・チーフサイエンティスト)

「温暖化と地球環境に関わる諸問題：大気科学からの視点」

高澤 哲也(環境省大気環境課長)

「大気汚染防止法施行50年(取組の現状と今後の課題)」

向井 人史 (国立環境研究所気候変動適応センター長)

「気候変動適応法と大気環境」

伊豆田 猛 (東京農工大学教授)

「大気環境変化とその植物影響」

杉山 大志 (キャノングローバル戦略研究所研究主幹)

「エネルギー転換の方向性と環境への負荷」

■ 懇親会

日時: 9月19日(木)

会場: 大國魂神社結婚式場 (〒183-0023 東京都府中市宮町3-1)

<http://www.ookunitamajinja-wedding.jp/wedding/index.html>

懇親会会場は学会会場から近距離にありますので、ぜひご参加ください。

*学会会場から徒歩で約20分、路線バスを利用される場合は、京王バス『府中駅行』にて晴見町(東京農工大学前)乗車→府中駅(終点)にて下車後、徒歩約5分です。

3. 年会参加登録

3.1 年会参加登録方法

年会ホームページからの参加登録とします。登録後に確認のメールが自動送信されますので内容をご確認下さい。

3.2 年会参加費並びに懇親会費及び事前払込割引(期限7月31日(水))

当日支払いの参加費は高額となりますので、できるだけ事前払込(期限: 7月31日)をお願いします。また、参加費にはプログラム集および講演要旨集代が含まれています。年会ホームページの案内に従って、クレジットカード、または銀行振込みでお支払い下さい。

懇親会会場は次報及び年会ホームページ上でお知らせします。

| | 参加費 | | 懇親会費 | |
|-------|----------|-----------|---------|---------|
| | 事前払込 | 当日 | 事前払込 | 当日 |
| 正会員 | ¥7,500 | ¥10,000 | ¥10,000 | ¥12,000 |
| 賛助会員 | ¥7,500/人 | ¥10,000/人 | ¥10,000 | ¥12,000 |
| 法人会員B | ¥7,500/人 | ¥10,000/人 | ¥10,000 | ¥12,000 |
| 学生会員 | ¥3,500 | ¥5,000 | ¥5,000 | ¥6,000 |
| 法人会員A | ¥10,000 | ¥12,000 | ¥10,000 | ¥12,000 |
| 名誉会員 | 招待 | | ¥10,000 | ¥12,000 |
| 非会員 | ¥10,000 | ¥12,000 | ¥10,000 | ¥12,000 |

3.3 参加費払込み後の取り消し

参加費、懇親会費を払込み後の取り消しは、受け付けできませんので、ご了承下さい。

3.4 講演要旨集(PDFファイル)について

参加登録者は、年会ホームページで講演要旨集のPDFファイルを閲覧、ダウンロードできるようにします。

3.5 プログラム集の送付について

プログラム集(冊子体)は当日配布とし、事前送付はいた

しません。なお、今回の年会では講演要旨集(冊子体)は配付いたしません。年会に参加せず、プログラム集および講演要旨集のみの購入をご希望の場合は、3.6をご参照ください。

3.6 プログラム集および講演要旨集のみの販売

年会に参加せず、プログラム集(冊子体)および講演要旨集(PDFファイル)の購入のみ希望の方は、年会ホームページの案内に従って申込み、代金を払い込んで下さい(1式5,000円・送料込み)。発送は9月上旬頃の予定です。

3.7 個人情報の取り扱いについて

参加登録者から取得した個人情報は、年会の運営に係わる適正な利用範囲(事務局からの問い合わせ、補助金申請のための名簿作成等)に限り使用し、他にご本人の同意なく第三者に提供することはありません。

4. 一般研究発表の申込み

4.1 発表の種類

発表形式は口頭発表とポスター発表の2種類があります。ポスター発表について学生・若手研究者の希望者を対象に優れた発表を表彰する予定です。ポスター発表ではコアタイムを設ける予定です。

4.2 申込み方法

年会ホームページからの申込みとします。まず、3.1に従って参加登録を行ってから、一般研究発表の申込みを行って下さい。発表申込み金(演題1題につき2,000円)は年会参加費とともに払い込んで下さい。なお、特別集会および分科会の発表申込み金は不要です。

申込みの際に入力していただく項目及び発表部門は、「6. 研究発表の申込み時の入力項目及び発表部門」を参照してください。

4.3 申込み時の注意事項

- 筆頭発表者および演者は会員に限ります(共同発表者は非会員でも構いません)。未入会の方は、大気環境学会ホームページ(<http://www.jsae-net.org>)で入会手続きを行ってから、申込みをして下さい。
- 同一演者による一般研究発表は、3題以下とします。複数の発表がある場合には、希望する発表順序を必ず入力して下さい。なお、特別集会、分科会などはこの数に含みません。
- プログラム編成の都合により、発表部門・発表方法を変更させていただくことがあります。
- 英文題名は修正・訂正していただくことがあります。
- 発表申込みは、必ず共同発表者全員の了承を得てから行って下さい。なお、発表内容に問題があると判断された場合には申込みを受理しません。

4.4 発表申込み期限および発表申込み金

- 発表申込み期限：2019年5月31日(金)
- 発表申込み金：演題1題につき2,000円を、参加登録後に発表申込みを行ってから、年会参加費とともに払い込んで下さい。払込み後の返金はできませんので、ご了承ください。

4.5 講演要旨原稿の提出

提出期限：2019年6月30日(日)

提出方法：年会ホームページ「一般研究発表」のページより指示に従ってご提出下さい。

- 年会ホームページでのみ原稿を受付けます。
- 期限を過ぎて提出された原稿は受け付けません。
- 原稿作成の詳細については後述の「講演要旨原稿作成・提出の手引き」をご覧ください。

4.6 発表に関する注意事項

- 口頭発表では、Windowsでのパワーポイントによるプレゼンテーションを予定しています。詳細は、年会ホームページ上で後日ご案内します。
- ポスターサイズなど発表方法の詳細は、年会ホームページ上および続報でお知らせします。
- 会場での発表資料等の配付は、各人の責任で行って下さい。

5. 特別集会・分科会企画の公募

特別集会と分科会是一个のカテゴリーとして、企画を公募します。開催を希望される場合は、下記の「5.1 特別集会・分科会概要」に示す内容を、メールで以下のアドレスまでお送り下さい。

申込み期限：2019年5月10日(金)

申込み先：第60回大気環境学会年会事務局

Email: jsae60@m2.tuat.ac.jp

5.1 特別集会・分科会概要

- タイトル(特別集会、分科会の別を入力のこと)
分科会のテーマに関係が深い内容は、特別集会ではなく分科会での申請をお願いいたします。
- 趣旨・内容(200字程度)
- 発表者の氏名・所属と希望時間
- 企画責任者の氏名・連絡先(所属機関・部署名、住所、電話及びFAX番号、メールアドレス)

5.2 企画の採否と内容の決定、演題・要旨の提出

年会実行委員会で日程・プログラム編成上の都合を勘案して企画の採否を決定し、企画責任者へ通知します。演題と講演要旨原稿は、一般研究発表と同様に年会ホームページを通して提出していただきます。なお、特別集会、分科会の演題については発表申込み金は不要です。

6. 研究発表の申込み時の入力項目及び発表部門

6.1 入力事項

一般研究発表を申込み際に入力いただく項目は以下のとおりです。

(特別集会、分科会については企画責任者が全演題をとりまとめて、事務局にお送りください。)

【筆頭発表者情報】

- 氏名(漢字、ローマ字)
- 会員番号(学会誌送付の封筒ラベルにあります)
- 会員種別：正会員、学生会員、法人会員A、法人会員B、賛助会員、名誉会員
- 所属機関名(和文・英文)
- 年会参加登録番号
- 電子メールアドレス
- 電話番号
- パスワード

【発表者情報】

- 所属機関名(和文・英文)
- 共同発表者の氏名(漢字、ローマ字)
- 講演要旨掲載順

【発表形式・部門】

- 希望発表形式：口頭発表またはポスター発表を選択
- 審査希望の有無：ポスター(学生・若手研究者)での審査希望の有無を入力して下さい。
- 希望発表分類：発表部門・分類一覧の中から、発表を希望する部門・分類を第1希望は必ず、必要に応じて第3希望まで選択して下さい。
- 関連発表順序：複数の関連した内容の発表を続けて行いたい場合は、備考欄に、関連発表の発表者氏名(またはID)と演題名を入力し、ご自分の発表との順序を入力して下さい。

【演題名と講演要旨】

- a. 演題名 (和文)
- b. 演題名 (英文)
- c. 発表分類のための要旨: 研究目的、方法、結果等を200字以内で記入
- d. 発表分類のためのキーワード (3~4個)
- e. 講演要旨 (研究発表の申込み時は不要ですが、6月30日までに提出してください。)

| | |
|-------|----------------------------|
| 7 その他 | 7-1 環境社会科学・環境学習 7-2 その他 |
|-------|----------------------------|

発表部門・分類一覧

| | |
|------------|---|
| 1 大気汚染物質 | 1-1 光化学オキシダント 1-2 VOC 1-3 粒子状物質1 (分析・測定手法) 1-4 粒子状物質2 (現象解明・事例解析) 1-5 酸性雨 1-6 放射性物質 1-7 有害化学物質 1-8 その他 |
| 2 環境動態 | 2-1 室内環境 2-2 沿道環境 2-3 都市・地域汚染 2-4 東アジア 2-5 地球環境 |
| 3 影響 | 3-1 植物影響 3-2 材料・文化財影響 3-3 臭気 3-4 動物影響・毒性評価 3-5 疫学・リスク評価 |
| 4 発生源 | 4-1 移動発生源 4-2 固定発生源 4-3 排出インベントリ 4-4 排出規制・抑制技術・コベネフィット |
| 5 輸送・反応・沈着 | 5-1 輸送・拡散 5-2 反応 5-3 沈着 |
| 6 手法開発 | 6-1 測定技術 (一般) 6-2 数値解析・モデリング |

6.2 著作権について

大気環境学会年会講演要旨集に掲載された講演要旨の著作権は、(公社)大気環境学会著作権ポリシーに基づき、公益社団法人大気環境学会に属します。

7. 問い合わせ先など

年会に関する情報は、逐次「大気環境学会誌」の大気環境学会ニュース欄でお知らせするとともに、最新情報は随時年会ホームページに掲載します。不明な点については下記までお問い合わせ下さい。

【年会ホームページアドレス】

<https://conv.toptour.co.jp/2019/jsae60/>

【第60回大気環境学会年会に関するお問い合わせ先】

東京農工大学 農学部環境資源科学科
第60回大気環境学会年会事務局
〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8
TEL/FAX: 042-367-5728 (伊豆田研究室)
Email: jsae60@m2.tuat.ac.jp

【参加登録に関するお問い合わせ先】

東武トップツアーズ(株)東京国際事業部
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25
西新宿プライムスクエア16階
TEL: 03-5348-3897
FAX: 03-5348-3799
Email: jsae60@tobutoptours.co.jp
営業時間: 平日9:30~18:30 土日・祝日休業

要旨原稿作成・提出の手引き

1. はじめに

講演要旨原稿の提出は、年会ホームページでのみ受け付けます。年会ホームページ内の『発表申込み・講演要旨提出』にある原稿作成用テンプレート（Word形式）をダウンロードしてPDFファイルを作成し、同じくホームページからPDFファイルをアップロードして下さい。原稿がアップロードできない等の不都合がある場合は、年会ホームページの「参加登録に関するお問い合わせ先」までご連絡下さい。

2. 本文作成および原稿アップロード方法

2.1 本文作成

- ①年会ホームページより『発表申込み・講演要旨提出』へアクセスして下さい。
- ②「原稿作成用テンプレート」をクリックすると、ダウンロードできます。
- ③テンプレートをダウンロードできない場合は、下記を参考に作成してください。
 - ・上に25 mm、下に20 mm、左右に20 mmずつ余白をとり、この範囲内に原稿を横書きで書いて下さい。
 - ・所定の位置に講演題目、名前、所属を記入して下さい。発表者の所属が異なる場合には、名前と所属の右肩に上付きで1) や2) の印をつけて、対応がわかるようにして下さい。
 - ・演者には名前の前に○印をつけて下さい。
 - ・フォントは講演題目はゴシック12ポイント、講演題目以外は明朝10ポイントにして下さい。
- ④ページの上限は、一般研究発表1ページ、特別集会4ページ、分科会2ページとします。特別集会、分科会の詳細については各企画責任者に問い合わせて下さい。
- ⑤原稿をPDFファイルに変換してください。
 - ・Adobe Acrobat等でPDFファイルに変換してください。

- ・PDF変換の際には、フォントの埋め込みを行ってください。
- ・必ずPDFファイルを出力して、文字化け、画像の乱れ等がないかご自身で確かめて下さい。事務局では内容のチェックをしません。画像の乱れや文字化けなどがそのまま講演要旨集に残りますのでご注意ください。

2.2 原稿提出・修正

①年会ホームページにてPDFファイルの提出

- ・年会ホームページより、『学会申込みサイト』にアクセスし、申込み時に発行されたID、パスワードを入力後、案内に従って『発表申込み・講演要旨提出』よりアップロードして下さい。

②提出原稿の修正

- ・いったん提出した原稿をオンラインで修正することはできません。ただし提出期限内であれば、原稿全体を入れ替えることは可能です。①と同様に、『発表申込み・講演要旨提出』より修正したPDFファイルをアップロードして下さい。
- ・原稿を入れ替える際に演題名や発表者名等を変更した場合は、『学会申込みサイト』上で登録した演題名等もそれに合わせて修正して下さい。なお、発表申込み期限である5月31日以降は、プログラム編成上、要旨原稿の入れ替え以外の演題名や発表者名等の変更は原則として受け付けませんのでご注意下さい。

以上、詳しくはホームページに記載されている事項をよくお読みの上、お手続きください。

3. 講演要旨原稿提出期限：2019年6月30日（日）

期限までに提出されなかった場合は、講演要旨集に掲載できませんのでご了承ください。

◆◆◆◆◆大気環境学会ニュース◆◆◆◆◆

第60回大気環境学会年会「環境機器展」のご案内

公益社団法人大気環境学会では、9月18日(水)～20日(金)に東京都府中市にある東京農工大学府中キャンパスにて第60回大気環境学会年会を開催いたしますが、例年通り年会に併設して『環境機器展』を開催します。

例年500人を超える大気環境分野の研究者が集う本年会は、貴重な情報交換の場ともなっております。また昼休み中の技術セミナーの開催、プログラム集に関係各位の広告を掲載するページも準備しております。

『環境機器展』の出展のお申し込みは5月31日(金)までを予定しております。詳細は年会ホームページ(<https://conv.toptour.co.jp/2019/jsae60/>)をご確認ください。

支部だより

関東

2018年度支部総会のお知らせ

日時：2019年6月14日(金) 12:30~13:00
(受付開始12:00)
場所：ムーブ町屋 ムーブホール
東京都荒川区荒川7-50-9 センターまちや3・4階
<http://www.sunny-move.com/move/>

議事:

- ・2018年度支部・部会活動報告
- ・2018年度中間会計報告
- ・2019年度予算案
- ・2019年度活動計画案
- ・その他

*支部会員の方はご出席をお願いします。出席できない方は、委任状の提出を事務局までお願いします。

(E-mail: jsae.kanto@gmail.com, FAX: 0480-70-2031)

*総会に引き続き、支部講演会を開催します。

2018年度大気環境学会関東支部講演会

テーマ：大気汚染防止法施行後50年を迎えて

日時：2019年6月14日(金) 13:00~16:30
場所：ムーブ町屋 ムーブホール
東京都荒川区荒川7-50-9 センターまちや3・4階
<http://www.sunny-move.com/move/>

概要：大気汚染防止法(大防法)が施行されてから、平成30年で50年を迎えました。

この間、わが国の大気汚染濃度レベルは大きく下がり、大防法が大きく貢献したことは疑うまでもありません。一方で、越境汚染、有害大気汚染物質など新たな問題が生じるとともに、法律そのものも時代にあった変化も望まれてきているのではと考えられます。

今年度の大気環境学会関東支部講演会では、わが国の大気環境問題に対して大防法が直接的・間接的に果たしてきた成果を振り返るとともに今日での課題を整理し、次の50年に向けた方向性を考える場としたいと考えています。

プログラム(演題名はすべて仮題です):

1. 大気汚染防止法施行50年~現状と課題
高澤哲也氏(環境省水・大気環境局大気環境課長)
2. 大気環境改善に自治体が果たした役割(東京都の事例を中心に)
横田久司氏(公益社団法人大気環境学会事務局)

各支部のホームページもご覧ください。
学会ホームページ(<http://www.jsae-net.org/>)にリンクがあります。

3. 日本の大気環境変化と対策効果、そして今後は?
大原利真氏(国立環境研究所、公益社団法人大気環境学会会長)
 4. 大気環境の改善を目指して
坂本和彦氏(埼玉大学名誉教授)
 5. 総合質疑
- 費用：参加費無料(ただし資料代1000円)
参加申込：メールあるいはFAXにて、以下の必要事項をお知らせください。

必要事項：氏名、所属、連絡先(TELおよびE-mail)

申込先：関東支部事務局 三輪・城
〒347-0115 埼玉県加須市上穂足914
埼玉県環境科学国際センター内

E-mail: jsae.kanto@gmail.com FAX: 0480-70-2031

申込締切：6月11日(火)

近畿

講演会「小型センサによるエアロゾル計測」 開催報告



近畿支部エアロゾル部会では、大気環境学会酸性雨分科会との共催で、平成31年3月6日(水)に大阪市立環境科学研究センター会議室において講演会を開催しました。

講演会では、名古屋大学とパナソニック(株)により開発されたPM_{2.5}小型センサについて、計測原理や測定精度、室内や特定発生源付近等における観測事例、また、大気環境分野での応用事例などを、渡部祥文先生(パナソニック株式会社 エコソリューションズ社)、板野泰之先生(大阪市立環境科学研究センター)、松見豊先生(名古屋大学宇宙地球環境研究所)にご講演いただきました。

当日は、大学や地方環境研究所に加え、機器メーカーからも多くの方にご参加いただき(計52名)、活発な意見交換が行われました。ご講演いただきました講師の方々、参加者の皆様に心よりお礼申し上げます。



講演会の様子

 **関 連 学 協 会 だ よ り** **日本学術会議公開シンポジウム「環境変動にともなう生態系の応答を測る」**

日時：2019年5月16日 13:00~17:00

場所：日本学術会議講堂

主催：日本学術会議 農学委員会 農業生産環境工学分科会、環境学委員会 環境科学分科会

連絡先：北海道大学・平野

(E-mail: hirano@env.agr.hokudai.ac.jp)

第18回嗅覚とエレクトロニックノーズ国際シンポジウム

日時：2019年5月26日~29日

場所：アクロス福岡

主催：第18回エレクトロニックノーズ国際シンポジウム組織委員会

第29回環境工学総合シンポジウム2019

日時：2019年6月25日~28日

場所：万国津梁館(名護市字喜瀬1792番地)

主催：(一社)日本機械学会

詳細：<http://www.jsme.or.jp/env/see/2019/>**第36回エアロゾル科学・技術研究討論会**

日時：2020年9月5日~6日

場所：広島大学東広島キャンパス

主催：日本エアロゾル学会

詳細：<https://www.jaast.jp/n36/index.shtml>**2020年酸性雨国際会議(ACID RAIN 2020)**

日時：2020年10月19日~23日

場所：朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター

主催：科学運営委員会他

詳細：E-mail: ar2020jp@acap.asia

賛助会員一覧（五十音順）

株式会社秋田県分析化学センター

川崎市環境局環境総合研究所

株式会社環境管理センター

紀本電子工業株式会社

柴田科学株式会社

株式会社数理計画

一般財団法人大気環境総合センター

千葉県環境生活部大気保全課

東亜ディケーケー株式会社

東京ダイレック株式会社

東京都環境局環境改善部

トヨタ自動車株式会社 法規認証部法規渉外室

日本カノマックス株式会社

一般財団法人日本環境衛生センター

東日本高速道路株式会社

富士電機株式会社 産業インフラ事業本部 産業計測機器事業部

「大気環境学会誌」編集委員

| | | | | |
|--------|------|----------------|-------|----------------|
| 編集委員長 | 速水洋 | 電力中央研究所 | 武田麻由子 | 神奈川県環境科学センター |
| 副編集委員長 | 上野広行 | 東京都環境科学研究所 | 辻昭博 | 京都府保健環境研究所 |
| 編集委員 | 池盛文数 | 名古屋市環境科学調査センター | 戸野倉賢一 | 東京大学大学院 |
| | 大西一成 | 聖路加国際大学公衆衛生大学院 | 中村篤博 | 香川高等専門学校 |
| | 勝見尚也 | 石川県立大学 | 早崎将光 | 日本自動車研究所 |
| | 黄瀬佳之 | 山梨大学大学院 | 原政之 | 埼玉県環境科学国際センター |
| | 黒川純一 | アジア大気汚染研究センター | 伏見暁洋 | 国立環境研究所 |
| | 小林拓 | 山梨大学大学院総合研究部 | 堀本泰秀 | 千葉県環境研究センター |
| | 櫻井達也 | 明星大学理工学部 | 増田淳二 | 大阪市立環境科学研究センター |
| | 定永靖宗 | 大阪府立大学大学院 | 家合浩明 | 新潟県保健環境科学研究所 |
| | 篠原直秀 | 産業技術総合研究所 | 山田裕之 | 東京電機大学 |
| | 柴田慶子 | いすゞ中央研究所 | 弓本桂也 | 九州大学応用力学研究所 |
| | 嶋寺光 | 大阪大学大学院 | 米倉哲志 | 埼玉県環境科学国際センター |
| | 関口和彦 | 埼玉大学大学院 | 和田龍一 | 帝京科学大学 |

複写される方に

本誌(書)に掲載された著作物を複写したい方は、著作権者から複写権の委託をうけている次の団体から許諾を受けて下さい。

学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル

TEL: 03-3475-5618 FAX: 03-3475-5619